

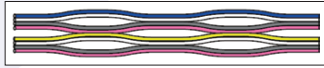
PICK UP

光ケーブル

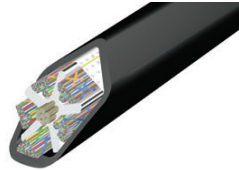
間欠接着型テープ心線を適用 細径1000心テープスロット型ケーブル

→ P.18

- ◆間欠接着型テープ心線の技術を活用して、テープスロット型ケーブルを外径20mmまで細径化しました。
- ◆従来の1000心テープスロット型ケーブルとも容易に接続が行えます。
- ◆防水機能があるため地下管路敷設に最適です。
- ◆難燃やノンメタリックの仕様もあります。



間欠接着型8心テープ心線



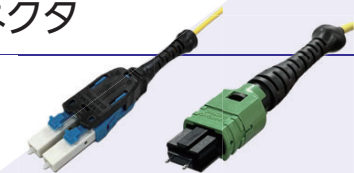
NEW

光コネクタ

高密度パネルでの挿抜性を一層向上 プッシュ/プルブーツ型光コネクタ

→ P.25、P.41

- ◆高密度パネルやSFPモジュールでのコネクタ挿抜性を向上させました。
- ◆プッシュ/プルブーツ型ULCコネクタとプッシュ/プルブーツ型MPOコネクタの2種をリリース予定です。
- ◆プッシュ/プルブーツ型ULCコネクタは、従来型ULCコネクタと同様、治具を使わずに容易にプラグの左右入れ替え(極性変換)が可能です。



プッシュ/プルブーツ型
ULCコネクタ
→ P.25

プッシュ/プルブーツ型
MPOコネクタ
→ P.41

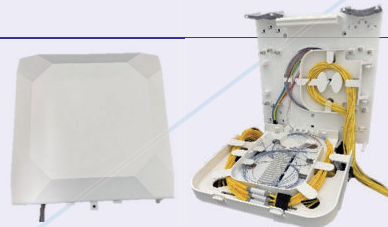
NEW

壁掛用
光接続箱

製品選定に悩まないオールインワン仕様の光接続箱です a-BOXuc

→ P.73

- ◆汎用ケーブル、コードの導入出が可能です。
- ◆SCコネクタ、24心までの接続に対応しています。
- ◆多様な配線形態に対応した接続箱です。



トレンド情報

コネクタの挿抜性を重視した製品のご紹介

配線スペースを有効活用するために、スプライスユニットやパッチパネルの高密度化が進んでいます。その結果、コネクタ同士の接続に使用されるアダプタが隙間なく配置され、手指が入らず、コネクタの挿抜ができない… そんなお困りごとを解決するのに役立つ製品を3点ご紹介いたします。効率的な作業環境を実現するため、是非、ご覧ください。



アダプタの間隔が狭くてコネクタが抜けにくいぞ…(困)

解決1

高密度パネルやSFPでの挿抜性を一層向上 プッシュ/プルブーツ型FlexULC®コネクタ

→ P.25

- ◆従来型のプッシュプルグリップをブーツと一体化。従来型のULCコネクタと比べ高密度パネルでの挿抜性をより一層向上させました。
- ◆従来型と同様、治具を使わずに容易にプラグの左右入れ替え(極性変換)が可能です。
- ◆両端の極性変換窓の色の組み合わせにより現在の極性(A or B)が識別可能です。



2026年度
リリース予定

解決2

高密度パネルやSFPでの挿抜性を一層向上 プッシュ/プルブーツ型MPOコネクタ

→ P.41

- ◆ブーツを把持した挿抜が可能。高密度パネルでの挿抜性を向上させました。
- ◆ブーツは挿抜時の屈曲を抑えつつ、配線時には適切な曲げ半径を確保しました。
- ◆挿抜時の操作性の高さと指への負担軽減を両立しました。



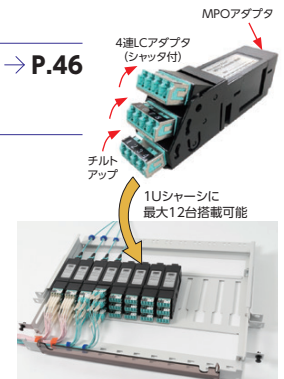
2026年度
リリース予定

解決3

独自のチルトアップ機構でコネクタ挿抜しやすい PrecisionFlex® MPOカセット

→ P.46

- ◆12MPOコネクタを12個のLCコネクタに変換するためのカセットです。
- ◆4連のLCアダプタごとにチルトアップする機構でLCコネクタの挿抜が容易です。
- ◆LCアダプタはシャック付で、面倒なキャップの取り外しや保管が不要です。
- ◆19インチラック型の1Uスライド式カセットシャーシに最大12台搭載可能です。



MPOカセットシャーシ(スライド型)

ユーザビリティ向上の取り組み

目的や用途に応じた製品提案



現場の作業効率向上やメンテナンスのしやすさ、さらに、製品のカスタマイズなど、お客様のニーズや用途にお応えするため、最適な製品提案を心がけています。お悩みやご要望がございましたら、お気軽にお問い合わせください。



色で識別する視認性

コネクタ識別方法の1つとして、ブーツ色を変更することができます。例えば、重要回線のみ、特別なブーツを使用することで視認性を高めることが可能です。マーク/バンドやマーカーチューブによる線番表示と合わせてご検討ください。



色別緑赤黄白橙
適用はSCとLCの2品種になります

用途に応じた柔軟性

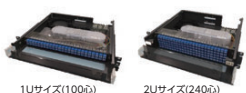
データセンター向け多心仕様は、前後面作業式と前面作業式の2通りがございます。用途や設置場所に合わせて、お選びください。



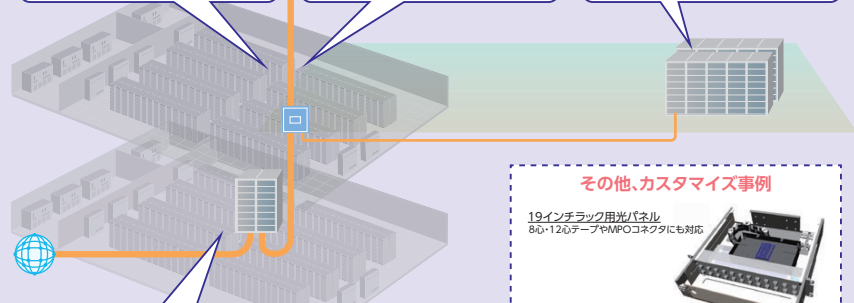
2000心用前面作業式成端架

高密度化による省スペース化

19インチラック用、LCコネクタタイプの光パネルは、1Uで100心、2Uで240心まで接続可能です。また、プレ配線およびキャブレスのシャック付きアダプタにより、スムーズな接続作業が行えます。

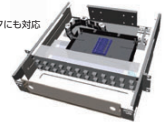


1Uサイズ(100心) 2Uサイズ(240心)
高密度光パネル(Y-OP40A)



その他、カスタマイズ事例

19インチラック用光パネル
8心・12心タイプやMPOコネクタにも対応



屋外用接続箱
光・電力一体型



光・電力複合用クローゼット
地中用・架空用



工場実装(プレ配線)による効率化

コネクタ付きFCコード(P.29)や光スプリッタ(P.116)などを収納した状態で納入するプレ配線タイプを推奨しております。



Y-OP4-PC4FO FCコード
クローゼット CFJB40
ご指定の構成にて工場実装に対応いたします

融着接続機ヘルプビデオの搭載

すべての融着接続機には、作業手順やメンテナンス方法をわかりやすく解説したヘルプビデオが搭載されています。このビデオを活用すれば、初心者の方でもスムーズに作業を進めることができます。また、接続口の原因となるV溝の汚れについて、標準添付のV溝清掃用具VGT-2*を使用した効果的な清掃方法などのお役立ち情報もご覧いただけます。
*TYPE-201+の場合



オペレーション&メンテナンス

融着接続機のバッテリーについて

当社の融着接続機は、スマートフォンやパソコン、電気自動車など、みなさまの身近で幅広い用途で使われているリチウムイオン電池を使用しています。バッテリーに関するよくあるご質問を元に、安全かつ効果的にお使いいただくためのポイントをご説明いたします。



バッテリーの寿命はどれくらいですか？

0~100%の充電を1回とカウントすると、充電回数がTYPE-201+のBU-12Lで700~800回、BU-12XLで1,000回が寿命の目安です。寿命といってもすぐに電池として使えなくなるわけではなく、充電電の繰り返しにより蓄電容量が次第に減少していき、劣化が進んでいきます。満充電にしても使える時間が短くなってきたら寿命が近づいていますので、買い替えのご検討をお願いいたします。



バッテリーは継ぎ足し充電しても大丈夫ですか？

バッテリーは継ぎ足し充電しても問題ありません。継ぎ足し充電がバッテリーにとってよくないというイメージがありますが、その心配はありません。また、バッテリーが空の状態でも充電しても問題ありませんが、空の状態は劣化を早めるため、早く充電するようにしてください。リチウムイオン電池は過剰な熱や寒さに弱いため、充電は15~30℃程度の常温環境でおこなうことを推奨いたします。



バッテリーはどのように保管したらいいですか？

バッテリーは-20~20℃で保管をお願いいたします。熱源の近くや直射日光が当たる場所、急激な温度変化や高温の環境などは、バッテリーの保管に適していません。また、長期保管の場合、半年に1回30分の充電を推奨いたします。空のまま保管すると劣化が早まり、バッテリーが使用できなくなる場合があります。



納入された製品をすぐに使用しない場合は、30~60分程度充電してから保管をお願いいたします。

融着接続機、関連工具類の修理・メンテナンスについて

当社は神奈川県茅ヶ崎にある融着接続機の製造拠点に、専属の保守エンジニアが常駐するお客さまサービスセンターを設けており、お客さまからのお問い合わせやトラブルにスピーディーかつ確実に対応し、適切なサポートを提供しています。当社では、融着接続機を最適な状態で長くご使用いただくために、年に1度の点検をお勧めしております。不具合や修理、点検のご依頼は、お客さまサービスセンターまでお問い合わせをお願いいたします。



お客さまサービスセンターのお問い合わせ先はP112に記載しております。

融着接続機 Zステージ位置調整

オペレーション&メンテナンス

敷設した光ケーブルの点検について

光ケーブルの更新時期は、敷設されている環境や使用されている状況によって異なりますが、一般的には屋内布設では20年、屋外布設では15～20年が、推奨とされています。

光ケーブルの定期点検項目としては、一般的に次のようなものが挙げられます。点検にて異常が見つかった場合には、速やかに更新のご検討をお願いいたします。

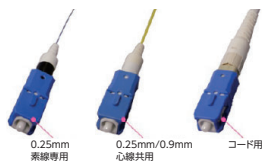
- ・伝送損失測定
光ファイバケーブルの特性として最も重要なものであり、空芯心線などを定期的に測定して変動の有無や程度を確認します。伝送損失の位置情報が分かるOTDR法が一般的です。
- ・目視点検
定期的に加えハンドホール内のケーブル/クロージャ等の外観確認、クロージャの気密等を確認します。

更新する光ファイバの選定について

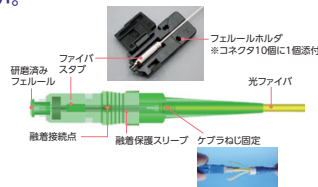
光ファイバにはさまざまな種類のものがありますが、近年標準的に用いられる光ファイバの大部分は、シングルモードでは半径15mmまで曲げられる曲げ強化タイプの1310nmゼロ分散形が、マルチモードではコア径50μmのものが使われております。現在では1550nm分散シフト形シングルモード光ファイバ(DSF)やコア径が62.5μmのマルチモード光ファイバなどはほとんど使われていないので、新しく光ケーブルを敷設される際、あるいは敷設されているケーブルを更新される際は、標準的な光ファイバのケーブルを選定されることをお勧めします。

光コネクタ接続部の断線応急処置について

光コネクタをアダプタに挿入する際に、当該もしくは隣接する光コネクタのブーツ後端付近に無理な力を加えてしまい、中の光ファイバを断線させてしまうトラブルが散発しています。こうした断線部を元通りに復旧させるには、恒久的には断線したコード(あるいはケーブル)を撤去し、代替となる光コネクタ付コード(あるいはケーブル)を新たに敷設する必要があります。しかしながら、代替品の調達には一定の時間がかかる上、敷設環境によっては断線したコード(あるいはケーブル)の撤去や新規敷設が困難な場合があります。そうした場合や応急処置としてお役に立てるのが、**現地組立コネクタ**です。研磨が不要で、ファイバカッターと簡易工具があれば1コネクタあたり数分で組立可能な**“メカニカルスプライス型”**と、融着接続機を使ってしっかりとファイバを融着接続することで低反射特性を実現する**“融着型”**の2種類の現地組立コネクタをご用意しています。P.53以降に各種製品メニューを掲載していますのでご参考ください。



メカニカルスプライス型現地組立コネクタ



融着型現地組立コネクタ

架空用光クロージャのスリーブ保守・点検について

架空専用クロージャのスリーブは、スリーブ開閉時に折り曲げるためのヒンジ部を有する構造を採用しています。設置環境や使用履歴にもよりますが、クロージャの設置から早いものでは10年程度を経過すると、ヒンジ部に亀裂が発生する場合がございます。この現象は、クロージャが経年劣化する際、スリーブ開閉時に繰り返し与えられるストレスと紫外線により、可動部であるヒンジ部から寿命を迎えているためと推定しております。クロージャを長期間ご使用いただくために、以下の保守対応をお願いいたします。

- ①クロージャ作業時にスリーブに亀裂を発見した場合は、以下の応急処置をお願いいたします。
クロージャスリーブの両端をケーブルしばり紐でほう縛する。※締め付けすぎないようにご注意ください。
または、耐候性のある粘着テープをスリーブ両端に複数層巻き付ける。
- ②設置後約10年を目安に定期点検を行い、スリーブを新品と交換いただくことを推奨いたします。

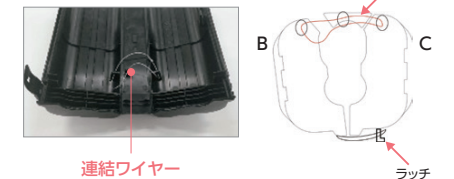


落下防止の対策として、ヒンジ部をワイヤーで繋いだ連結タイプのスリーブも用意しております。

保守用スリーブ一覧

クロージャ (標準品名)	保守用スリーブ	販売単位
MJC-FD MJC-MD	SLDスリーブ(ホシュ) SLDスリーブ(レンケツ)	6個入り/1箱
MJC-FD3 MJC-LD3 MJC-WD3	FD3スリーブ(ホシュ) FD3スリーブ(レンケツ)	6個入り/1箱
MJC-KD3	KD3スリーブ(ホシュ) KD3スリーブ(レンケツ)	6個入り/1箱
MJC-AFT	AFTスリーブ(ホシュ) AFTスリーブ(レンケツ)	4個入り/1箱
MJC-LLD	LLDスリーブ(ホシュ) LLDスリーブ(レンケツ)	4個入り/1箱

スリーブ内側(連結ワイヤー付き)



連結タイプはスリーブの内側でA,B,C部分をワイヤーにて連結する構造になります。これにより、仮にスリーブのヒンジ部が破断してしまった場合でも、ワイヤーとラッチ部分でスリーブが支えられており、脱落を防ぐことができます。